

# OKoTAC 通信

オコタック

2016年6月25日発行

## NO.29



※ころちゃんオリジナル手帳、できました。好評頒布中！

## P 2 NPO活動報告

第6回（2016年度）オコタック総会および特別講演

『「教科学習につなげるための内容重視の日本語教材」の開発と実践報告』

## P 3 地域の子ども支援教室から㉔

外国にルーツをもつ子どもたちのための学習支援教室 『きらきら』（西淀川区）

## P 4 特別寄稿(1)

『ピアにほんごの歩み』④

## P 5 Air Mail メキシコ便り ㉗

『メキシコ音楽、アウグスティン・ララ（前篇）』

## P 6 みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ㉙

『日本語教室の修了作文から』

## P 7 特別寄稿(2)

『ベトナムにほんご事情・フエ便り』②

## P 8 イベント情報

村上自子前理事長 退任挨拶





## おおさかこども多文化センター 活動報告

第6回（2016年度）オコタック総会および特別講演

「『教科学習につなげるための内容重視の日本語教材』の開発と実践報告」

～新理事長に濱名猛志氏、村上自子氏は副理事長に～



5月28日(土)、ヒューライツ大阪セミナー室にて、オコタックの年次総会を開催しました。委任状 35 名を含む 57 名の出席で総会は成立、村上理事長の挨拶のあと、事業報告・決算報告、理事の選任、活動計画・予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。

理事については、これまでオコタック創立以来理事長であった村上自子氏の退任(副理事長に新任)と、濱名猛志氏の理事長新任が承認されました。(8ページに村上前理事長あいさつ掲載)

その後引き続き、府立門真なみはや高校の有本昌代先生に上記テーマでお話いただきました。以下に事務局から報告します。



総会の後に、有本昌代さんの特別講演「『教科学習につなげるための内容重視の日本語教材』の開発と実践報告 ～年少者の日本語教育の視点から教材使用の具体的方策～」の機会を持つことができました。NPO 会員以外の大学院生や、教員をはじめとする子どもの日本語学習支援に関わる方々にもご参加いただき、約1時間半の限られた時間でしたが、会場は熱心に講義に耳を傾ける受講者でいっぱいになりました。



『教科学習につなげるための』『内容重視の』加えて『年少者の日本語教育の視点から開発された』日本語教材とその実践報告というタイトルからも、子どもの日本語指導に関わっている者であれば、ぜひ一度は聞いてみたい内容だったのではないかと思います。

講義では、大人と子どもの言語発達の違いに始まり、公立学校における日本語指導の課題、日本の学校に在籍する外国人生徒の特徴、国語と日本語の違い、そして有本さんが現在実践されている活動すなわち、門真なみはや高校での日本語指導について、という構成で、パワーポイントの映像を交えながら、盛りだくさんの情報を示してくださいました。特に、日本語指導における「クラス分け」「シラバス・教材づくり」「文法学習や漢字・語彙学習、音読・内容読解の分野別の『具体的な指導法』」等は、それぞれの参加者が行っている活動を振り返り、役立てていける色々なヒントが散りばめられていたのではないのでしょうか。



「高校という将来の道に繋がる大事な時期に、日本語の力をつけることはとても重要なこと」  
「いろいろな生徒のそれぞれの目指すべき学びに合ったトピック、すなわち内容を重視し、テーマをはっきりとさせたトピックを選択することで、たとえ生徒のレベルにばらつきがあったとしても、おのおののレベルに合った学びが見られる。考える力を育てることができる」という有本さんのことばが印象的でした。

今回のように、現場の実践からの報告を聞き、意見交換をすることは、日本語学習支援活動を充実させる大きな力になるなど感じています。今後もオコタックとしては、色々な現場での取り組みを共有する機会を提供し、関係者のネットワークを作っていければと思っています。

(O.Y)





外国にルーツをもつ子どもたちのための学習支援教室『きらきら』(西淀川区)

2016年1月よりスタートした「きらきら」。フィリピン、ペルー、ボリビア、ブラジルにルーツをもつ子どもたちのべ58人が参加し、1月から3月の間での実施回数は20回にわたりました。そしてその後は週1回木曜日に活動しています。

教室では、前半は苦手な勉強に挑むチャレンジタイムで、日本語での読み書きが難しい子は、本を読んで感想を書いたり、算数が苦手な子どもは100マス計算をしたりしています。そして後半は学校の宿題タイムです。コーディネーターと子ども一人ひとりが話し合って「今月の目標」を決め、それぞれの子どもに沿った学習サポートを行い、基礎学力の向上を目指しています。



また、私たちは保護者との面談も大事にしています。それは外国人のお母さんの持つ悩みや不安は尽きないからです。私たちは各家庭を訪問し、お母さんたちの生活相談にのり、子どもたちの勉強について話を聞き、「きらきら」への参加につなげていきます。このことは学習支援が必要な子どもたちに、確実に支援を届けるためには欠かせないものなのです。

このような「きらきら」の運営は「西淀川インターナショナルコミュニティ(Nishiyodogawa International Community)」(以下、NIC)との協力のもと行っています。NICは大阪市西淀川区に住むブラジル、ペルー、フィリピン出身者(多くは子をもつ親)が主体となって2015年9月に結成されました。それは自分たち自身が地域において力を発揮し、地域の担い手となる必要があるのではないかという思いからの立ち上げでした。



私たちは外国人住民や外国にルーツをもつ子どもたちが抱えている課題をNICといっしょに考えながら、教室をどう運営していけばよいか、また子どもたちへのサポートをどのように行っていけばよいかを日々考えながら活動を続けています。

まだまだ始まって間もない「きらきら」です。開所にあたっては、区役所、地域活動協議会、地域のみなさま、寄付をしてくださった方など、多くの方々にご協力をいただきましたが、より長く教室を運営し、子どもたちへのサポートを続けるために、現在、寄付を募っております。子どもたちが「学び」を諦めず、自分らしく輝いて生き抜いていける力を育むために、どうぞみなさまのお力をお貸しください。  
(多文化共生センター大阪 佐藤千佳)

活動場所 : 大阪市立出来島小学校  
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島2丁目2-24  
日時 : 毎週木曜日 16:00~17:30(原則、学校行事などで変更もあり)  
問合せ先 : TEL 06-6390-8201(担当者:小野杏奈) 16:00~17:30  
E-Mail osaka@tabunka.jp

編集部より

「きらきら」は教室を維持していくうえで、財政的に困難な状態で、みなさまからの支援を求めています。もし、よろしければ以下の口座に寄付をお願いします。(Y.H)

銀行振込の場合 三菱東京UFJ銀行 支店名:新大阪駅前支店 普通 4728051 特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪	郵便振替の場合 口座記号番号 00940-3-38938 特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪
---	---





## 特別寄稿(1) 「ピアにほんご」の歩み ④

村上 自子 (ピアにほんご コーディネーター、おおさかこども多文化センター 副理事長)

編集部より

これまで3回にわたって連載してきた「大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)」の歩み、最終回の今号では、支援対象である帰国・渡日生徒たちがこの10年でどのように変わってきたか、そしてピアにほんごの願いと今後のあり方について書いてもらいます。

★ ★ ★

ピアにほんご事業が始まって10年、この間、日本語指導の必要な生徒数は年々増え続けました(※)。当初対象生徒の大半は中国語だったのが、フィリピン語の生徒が増え、最近ではベトナム語、ネパール語も急増しています。そして、今までなかった言語(ダリ語、ウルドゥ語、ペルシャ語、シンハラ語、トルコ語、スワヒリ語、マレー語、インドネシア語、ヒンディ語等)を母語とする生徒が府立高校に入学してきました。このように最近では生徒の多言語化と、少数点在校化が目立ってきています。ちなみに2015年度は16言語、35校でした。

また、いわゆる“ダイレクト”(日本の中学を経験せずに、出身国の中学を卒業、あるいは高校を中退して、直接日本の高校に入学・編入してくるケース)も増えてきました。ダイレクトの生徒は、日本語が不十分だけでなく、日本の学校を経験していないので、高校に入学してからの支援が特に必要になってきます。

一方、幼少期に来日した子どもは、一見流暢に日本語を話すので、日本語力が十分についていると思われがちですが、言語の4技能、話す、聞く、読む、書く、のバランスを欠く生徒が少なくありません。それは、最初に編入してきた小・中学校で必要な日本語指導を十分受けていなかったり、日本語が不十分なため、年齢相応の学力を十分につけることができない

かったことも一因です。このように、母語・日本語とも年齢相応の言語力が十分に備わっていないダブルリミテッドと呼ばれる生徒にヒアリング等を通じて出会うことがあります。教員は単に学力が低いと思い、言語力に問題があることに気がつきにくいのですが、丁寧に生徒をみる必要があると思います。



このような日本語指導の必要な生徒が、帰国・渡日生徒の受入体制が十分でない一般高校や定時制課程にも入学するケースが近年増えてきていて、多

くの学校で教育サポーターによる支援が必要とされています。しかし、限られた予算の中では、サポーター派遣の申請があった生徒の支援の必要度に優先順位をつけてサポーターの派遣回数を決めざるを得ないのが、とても残念です。

また日本語が十分でない保護者との懇談にも、通訳として教育サポーターを派遣していますが、この懇談通訳派遣の申請数も年々増えています。日本の学校生活の経験がない保護者に、子どもが通う府立高校の制度や高校生活を理解してもらうことは重要なことです。このように、教育サポーターのニーズがますます高まっているにも関わらず、派遣に必要な事業費が現状に追いついていないことは重要課題です。

そして、もう一つの課題は少数言語の教育サポーターの確保です。知人を介して、大学や地域の国際交流協会・NPO等に人材を紹介してもらったり、人材を探すために様々なイベントに出向いていますが限界があります。このままの状態では、ピアにほんご事業は行き詰まると憂慮している今日この頃です。

世界的なグローバル化の影響で、海外から来日して日本の学校で学ぶ子どもの数は、ますます増え続けるでしょう。日本語指導の必要な生徒の高校入学に対して、どのような教育方針・指導方法で、高校卒業にふさわしい学力をつけていかかを再考する必要を切に思います。子どもの教育は待たなしです。複数の文化や言語を持った子どもたちが、将来日本社会を担っていけるように、教育環境を行政が本腰をいれて整備していくことを願ってやみません。

(※)参考資料:2006年時の大阪府の日本語指導の必要な外国籍児童生徒数は1,316名、このうち高校生は213名。

2015年の調査では、府内の日本語指導の必要な児童生徒数は2,836名、うち321名は高校生。





海外からのたよりをお届けします～

## メキシコ便り⑦ 「メキシコ音楽、アウグスティン・ララ(前篇)」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

ラテンアメリカはリズムの宝庫だといわれていますが、メキシコはそんななかでも音楽の多彩さにおいては群を抜いています。まずはマリアッチ(これは本来はメキシコ太平洋岸にあるハリスコ州で生まれたローカル音楽の楽団編成のことで、音楽ジャンルのことではないのですが、あのにぎやかな大衆音楽ランチェーラを多く演奏することで、マリアッチとランチェーラは同じだと思っている人は案外多いのです。厳密にいうと、このようにちょっと違うのですが、実際はメキシコ音楽というとマリアッチと定着してしまっています)。

このマリアッチで演奏する軽快で伝統的なメキシコの演歌がランチェーラ、そして早いテンポで、メキシコだけでなく中南米全域で、若者に圧倒的な人気のダンス音楽サルサ、少しゆっくり目のクンビア、お年寄りが好んで踊る落ち着いた感じのダンソン、メキシコ革命の中から生まれ歌い継がれているコリード、メキシコ北部で生まれ、国境地帯での麻薬密売や不法越境問題を多くとりあげるノルテーニョ、低音部をブラスバンドの移動楽器スーザーフォンが担当するにぎやかなお祭り音楽のバンダ、ノルテーニョから派生したポップス音楽グルペーラ、ロマンチックな大衆音楽ボレロ、このほか各地のインディエナ(先住民)の伝統音楽など、数えきれないほどの音楽がメキシコにはあふれています。

そんななかでもボレロは 1948 年に結成された男性3人組のトリオ・ロス・パンチョスが、センチメンタルなボレロを洗練されたコーラスで歌い、トリオ黄金時代を築きました。そしてボレロは日本をはじめ、世界に広がっていきました。彼らは 60 年代以降何度も来日し、いまではラテンのスタンダードナンバーになっている「ベサメ・ムーチョ」や「ソラメンテ・ウナ・ベス」「キエン・セラ」「ある恋の物語」などを大流行させました。日本では、アイ・ジョージや坂本スミ子などによって歌われ、ひとつのラテン音楽ムーブメントを起こしました。



そんなボレロは 1886 年キューバのサンチャゴ・デ・クーバで生まれました。ここで仕立て屋を営みながら歌手としても活躍していたホセ・サンチェスがスペイン舞踊のボレロをもとに作曲し、「トゥリステッサ(悲しみ)」と題して発表したのがアメリカ最初のボレロです。そしてそれがメキシコのユカタン半島に伝わり、メキシコ・シティーにやってきました。ここでボレロ・メヒカーナとしてさまざまに変化しながら定着し、現在に至っているのです。

そしてこのボレロの作曲家でもっとも有名なのが、メキシコ大衆音楽の先駆者アウグスティン・ララです。ララは 1900 年、メキシコ湾岸の港町ベラクルスから南に約 90 キロのトラコタルパンで生まれました。ここに彼の生家と博物館があるというので行ってみることにしました。



## みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ⑨

### 「日本語教室の修了作文から」

渡邊 勇（大阪市立西九条小学校 帰国した子どもの教育センター校

日本語・適応指導教室担当）

日本語教室を修了する際、子どもたちは作文を書きます。内容は、来日当初の思い出、日本語教室の思い出、これからがんばりたいこと、将来の夢などです。子どもたちは1年も経っているのによほど心に残っているのでしょう、編入当初のことを非常によく覚えていて驚かされます。そんな修了作文から、印象深かった3つの事例を紹介します。

ひとつ目は、A子さんが編入当初のクラスでの思い出を書いた作文の一部です。子どもたちがクラスに温かく受け入れてもらっているとこちらもうれしくなりますが、A子さんの作文を読んだ時には悲しくなりました。



「はじめ、クラスの友だちはとてもやさしくしてくれました。うれしかったです。でも、しばらくすると私は一人ぼっちになりました。だれも話してくれなかったのでさみしかったです。国へ帰りたと思いました」

幸い、作文には日本語の上達とともに友だちもでき、今は楽しいと、続けて書いてありました。日本語教室では、いつも明るく振舞っていたので、A子さんにそんなつらい時期があったことに気づいてあげられず申し訳なく思いました。それ以降、子どもたちには声かけをし、困っていることがあれば聞いたり、担任の先生と連絡を取り合ったりするよう心がけています。また、担任の先生方には、編入した子どもたちにとって居心地がよく、互いを認め合える学級づくりをお願いしたいと研修会等でもお話しています。

2つ目は、来日当初、日本語が全く分からず、ひらがなを覚えるのも苦労していたB君の作文です。

「ぼくは、日本に来たとき日本語がぜんぜんわかりませんでした。先生や友だちの言っていることもわからなくて困りました」

そんなB君と一緒に日本語の学習を始めて2か月が経ったころのことを思い出しました。B君が「ひろこさんのたのしいにほんご」の23課をスラスラと音読している姿を見たとき、突然胸にこみ上げるものがありました。ひらがなを全然読めなかったB君が、2か月でスラスラと読んでいる姿に感動したのです。この時、改めて日本語と一緒に勉強して本当によかったなと思いました。習得の速さも度合いも違う子どもたちですが、本人のがんばりをしっかり認め、ほめてあげなければと思っています。



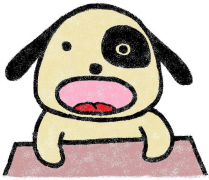
3つ目は、教科学習の難しさを書いたC君の作文です。

「学校の勉強はむずかしいです。特に国語の勉強がむずかしいです。6年生になったら国語の勉強をがんばりたいと思います」

他の子からも同様の声がたくさんあがっていましたので、日本語教室の担当者会で話し合い、国語科の学習を支援できる教材作りに取り組みました。中でも一番力を入れたのが、リライト教材(教科書の内容を分かりやすく書き直したもの)と、デリート教材(教科書の原文から難解な語句を消し内容を分かりやすくしたもの)の作成です。子どもたちはとても分かりやすいと喜んでくれました。

住み慣れた母国を離れ、日本で生活する子どもたち。そんな子どもたちの力になれるよう、これからもこのような教材づくりに取り組んでいながら、一緒に日本語の学習をがんばっていきたいと思います。





## 特別寄稿（2） 「ベトナムにほんご事情・フエ便り」②



国際交流基金 ベトナム第2期日本語パートナーズ 内田 千景

### 「ひな祭り」折り紙で〈おひなさま〉を作りました！



折り紙で作ったおひなさま

Chu Văn An(チュ・ヴァン・アン)中学校7年生クラスで、「ひな祭り」について勉強しました。「ひな祭り」は、女の子のお祭りですが、それを祝う意味などを実際に「ひな人形」や写真を見せて話しました。

「ひなあられ」や「白酒」、「ちらしずし」や「手巻きずし」の話をする、生徒は食べるのが好きですから、大喜びでした。特に日本の巻きずしは、ベトナムでも人気があるのですよ。

その後で、折り紙で「おひなさま」を作って、「ひな祭り」のカードを作りました。

ベトナムでは、3月8日が「Ngày phụ nữ quốc tế (ガイ・フー・ヌー・クオック・テー、国際婦人デー)」で、男性は、女性に花束をプレゼントする習わしがあります。

この日作った「ひな祭り」カードは、ぜひ、お母さん、お姉さん、女の子の友達、恋人？にプレゼントしてくださいね、と男子生徒に伝えましたが、どうやら何人かの男子生徒には恋人がいるようです。

### 「和紙染め」をやってみました！

Lê Hồng Phong(レ・ホン・フォン)中学校8年生クラスで、日本文化紹介の授業があり、「和紙染め」をしました。ベトナムにも竹を原料にしたすばらしい手漉きの紙がありますが、生徒たちに、日本の和紙のよさにも触れてもらいたかったからです。

日本から持ってきた障子紙を使って、まず、折り紙のように折りたたんでから、好きな色3色で染め上げました。教室の後ろに、男子生徒に頼んでロープを張ってもらい、染めた和紙を洗濯バサミでとめて干しました。ベトナムの学校の天井には、大きなファンがあって、扇風機が回っているので、すぐ乾きます。乾くの待ちながら、だれの作品が一番いいかを拍手して決めました。どれも全部、きれいだと思いますか？



万国旗のように並んだ「和紙染め」

ベトナムの生徒たちは、とても器用ですし、マンガや絵が上手で、色彩感覚も豊かだと思います。いつも、ノートの隅にマンガや絵を描いているのですよ。

### 学校でキャンプ!(前)

3月23日～26日まで、フエの中学校と高校では、1泊2日のキャンプ(cắm trại、カム・チャイ)がありました。校庭や運動場に、各学年・クラスごとにテントを張るのです。テントの前には、門も作ります。このテントと門は、生徒たちが自分でデザインを考えます。門には、ベトナムの偉人の名前もありました。夜になってからでもわかるように、門には電飾までついているのです。また各学年・クラスごとに、お揃いのTシャツも作りました。

キャンプは、朝6時から始まります。みんなでクイズやゲームをして、ダンスを踊り、歌を歌います。私も、日本の歌「世界に一つだけの花」を歌いました。ちょっと恥ずかしかったけれど、ベトナムの生徒も先生方も歌が大好きなので、大きな拍手をしてくれました。

(次号につづく)

## OKoTaC 学習会 『突然やってくる外国にルーツをもつ子どもたちをどう迎えるか？』

～豊橋市の実践事例から～』

【日 時】 7月30日(土) 13:30 ~ 16:30 ( 受付 13:00 ~ )

【場 所】 国労大阪会館 1階 小ホール ( 大阪市北区錦町2-20 ) JR環状線「天満」下車徒歩5分

【定 員】 50人(先着順) 【資料代】 500円 (おおさか子ども多文化センター正会員は300円)

★お名前・所属・住所・電話番号・メールアドレス等を下記奥付のアドレスまで7月23日までにお申し込みください。



### 村上自子前理事長、退任挨拶

2011年2月18日に、大阪の外国にルーツを持つ子どもの教育支援リソースセンターとしてNPO 法人おおさか子ども多文化センター(オコタック)を設立してから5年が経ちました。あつという間の5年間でした。設立に至る経緯については、『OKoTaC 通信』28号p4「ピアにほんごの歩み③」をご覧ください。

NPO の知識も資金もないところからスタートをしたのですが、賛同してくださる皆様の温かい応援と知恵をお借りして、少しずつNPOとしての基盤ができて、活動の幅も広がってきました。

思い起こせば、NPO 事務所の確保・移転先の場所探し・運営資金の不足(永遠の課題かな?)・人手不足などを、何とかクリアしながら今に至っています。少しずつ活動を広げている中で、オコタックの取り組みを評価していただき、様々な助成金の採択を受けて活動が続けられています。

しかし、オコタックがさらに発展していくには、水がよどまないように新しいリーダーを迎えることが必要ではないかと考え、理事長を退任することになりました。この場を借りて、オコタック活動に協力していただいている方々にお礼を申し上げ、引き続き応援のお願いをいたします。

\* 私の信条は「地道に活動をしていると願いはいつか叶う」です。願いの一つは、外国にルーツを持つ子どもたちが希望の進路を実現していくためのお手伝いとして、「奨学金・就学資金」制度を作ることです。どうぞ皆様の知恵とご協力をよろしくお願いします!!

※ 次号では濱名新理事長の挨拶を掲載します。(編集部)

### 2015年度オコタックへのご寄付ありがとうございました!

伊東和子、伊藤秀子、井上泰雄、岩佐雄二、金月由紀子、内藤路美、梨木亜紀、村上自子、安田乙世 MS&ADゆにぞんスマイルクラブ、オコタック事務局員、その他匿名10名(敬称略)



### NPO 法人 おおさか子ども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel/Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼイコウキョウ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさか子ども多文化センター』

( ㊦ガナ:トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター)

